

熊野の  
木林から

# 怪熊野

「水辺の妖怪と水難」

其の四

和歌山大学  
システム工学部  
環境システム学科  
中島敦司教授



熊野エリアの河童伝承の分布(地理院Web地図を改変)

夏休みに突入し、子どもたちは大喜びしていることだろう。夏休みというと、水辺での遊びが楽しみの一つ。プールだけでなく、自然豊かな熊野では海や川も子どもたちの歓声でにぎわう。ところが、水

辺にはさまざまな妖怪が潜んでいて、それらは水深の深い場所だけに潜んでいるわけじゃない。意外な浅瀬にだって、子どもたちを水底に引きずり込む妖怪たちが潜んでいる。代表的なものは、

何をおいても河童(かつぼ)であろう。熊野ではゴランボなどと呼ばれるもので、大抵の場所では高僧なんか



昔の熊野の川が極めて美しくったことの記録にもなった1枚の絵はがき。こんなにも透明度が高ければ、さぞかし河童も隠れにくかったことだろう。(場所は瀨峡のプロペラ船の船着き場、中瀬古友夫氏所蔵、中山仁氏提供)

では高僧なんかには封じ込められているため、今では出なくなっているが、安心はできない。また、淵では化けコサメ(アマゴ)が人を襲うこともあり、滝つぼには化け大蛇や牛鬼が潜んでいることもある。海では、モクリコクリなどの海坊主、柄杓(ひしゃく)で水をくんで舟を沈める舟幽霊、尻ビレで舟を叩いて沈めてしまうサメのような姿をした磯ナデ、霧の出る日に岩を投げつけることもあるイシナゲンジョ(石投げん女)、その他にもさまざまな妖怪がいる。いずれも、既に紹介したもののばかりなので、詳細はバックナンバーを参照されたし。

これらの水辺の妖怪は、子どもたちを水難へと導いてしまうことがあるのだが、筆者は、以前、仲間とともに川で溺れた女の子「たち」を助けたことが

あった。透明度の低い川でのことであつたため、水底に沈んでしまった二人の女の子を探するのに苦労した。たまたま、スクール水着で覆われていなかった白い足だけがぼんやりと見えたことで助け出すことができた。水から引き上げた時には二人とも呼吸停止していたが人工呼吸にて息を吹き返した。そこで学んだことは、何をおいても川の透明度は高くないといけないということだ。川が濁ってしまったら、河童が潜んでいることにも気づかないし、水底に沈んだ子どもを助けることもできないからだ。また、子どもを川や海で遊ばせる際には、ライフジャケットを着用させることだ。泳ぎの上手い子どもとつさの時にはバックになるからだ。さらに、明るい色の水着を着用させることで、いざという時に見つけやすくなる。暗い色のスクール水着などは避け

中島敦司(なかしま・あつし)教授プロフィール  
昭和38年、岐阜県生まれ。三重大学大学院生物資源研究科博士後期課程を修了。平成8年から和歌山大学システム工学部講師、12年から助教授。19年から教授。専門は森林生態、自然再生、砂漠緑化、海岸林再生、地域資源、地球温暖化、自然エネルギー、民俗(妖怪伝承)。NPO活動にも力を入れる。熊野方面には年間30〜50日は訪問し、研究する。

